

第 73 回結核予防全国大会決議文

新型コロナウイルス感染症（以下「コロナ」という。）の結核への影響が世界的な課題となっている。世界保健機関(WHO)は世界の結核患者届出数が 2021 年に 18%減少し結核死亡者も増加させたことにより、コロナの世界的流行が結核終息に向けた長年の取り組みを逆戻りさせたと警告した。また、低栄養や HIV 感染、糖尿病等の進行により、患者の増加や予後の悪化も懸念される。これまで目指してきた結核の終息に向けた患者中心の予防とケア、研究及び技術革新並びに多分野の連携協力に基づく対策は一層推進する必要がある。

我が国における 2020 年の結核罹患率は人口 10 万対 10.1 であり、例年以上の減少を示した。これは①コロナの感染を恐れて結核有症状者が受診を控えたこと、②健診事業の一時中止に加えオンライン授業やテレワーク等による健診受診者の減少、③コロナ対応を優先せざるを得なかったための接触者健診の停滞等、コロナのまん延により患者発見の機会が減少したことが大きく影響したためと考えられる。今後更に患者発生動向を慎重に観察しながら、患者減少の原因を解明する必要がある。

外国出生者の早期発見のためには、入国前及び入国後のスクリーニングの実施、有症状者の発見対策や治療完遂のための患者支援等対策の充実を図るとともに、呼吸器症状が出にくい高齢者結核の対応として 80 歳以上の健診受診の促進や地域包括ケアシステムと連携した患者発見と支援を進める必要がある。

外務省、厚生労働省、国際協力機構 (JICA)、結核予防会及びストップ結核パートナーシップ日本の 5 者は、昨年 8 月、ストップ結核ジャパンアクションプランの改訂版を策定し、2025 年までに罹患率を人口 10 万対 7 とする新たな目標を設定した。今後、厚生科学審議会を始め結核に関わる様々な分野において、新たな目標に対する具体的な戦略について協議を進める必要がある。

以上から、本大会は、国及び地方公共団体、医療機関及び結核予防会、全国結核予防婦人団体連絡協議会等の関係団体が力を合わせ、次の 4 項目について努力することを決議する。

- 一、新型コロナウイルス感染症が結核対策に及ぼした影響を分析し、超高齢者・外国出生者などのハイリスクグループに対する早期発見や確実な治療完遂を図るための対策を着実に進めること。
- 一、新型コロナウイルス感染症まん延の経験を踏まえて、保健所や医療機関等において、必要な結核対策の実施及び医療の適切な提供が行われるように、公衆衛生及び医療体制の強化を図ること。
- 一、日本の結核対策の経験や革新的な技術開発を通して一層の国際協力を推進し、世界の結核の終息に向けた対策の充実に努めること。
- 一、市民社会の役割の重要性を踏まえ、全国結核予防婦人団体連絡協議会は、国内外の関係団体と連携して政策決定者へ働きかけるとともに、感染症の予防と感染症に対する偏見をなくすために、市民に対する正しい知識の普及・啓発を推進し、複十字シール運動を更に活性化すること。

令和 4 年 3 月 8 日

第 73 回結核予防全国大会

第73回結核予防全国大会宣言文

新型コロナウイルス感染症まん延の経験を踏まえ、結核を含めた感染症対策の重要性を全ての国民と世界の人々が共有し、新たな結核対策の課題に立ち向かうとともに、感染症に対する偏見や差別をなくすための活動を推進する。

国連の持続可能な発展目標及び世界保健機関が進める結核終息戦略の目標達成のために、日本が高まん延期を克服した経験と日本で開発された革新的技術を活かし、感染症対策に関わる国内外の関係機関と連携しながら、結核対策活動を推進する。

以上、宣言する。

令和4年3月8日

第73回結核予防全国大会